

△国語 解答・解説編▽



問一 羽づかひ 問二 (例)本物の白鷺が飛んでいるように描いてもらいたい。
問三 ウ 問四 I この飛び様が第一の出来物ぢや(14字) II (例)自分が描いた白鷺の方が本物より飛び方が上手だ

解説

問一 白鷺が飛ぶ絵について、実際の飛び方とは違うと指摘している。
問二 本物の白鷺が飛ぶ様子を見てこう言っている。
問三 亭主は絵描きの絵を見て、白鷺の飛び方に不満を感じている。
問四 この話の面白みは、自分の絵の不出来を絶対に認めようとせずに、勝手な理屈を言い張る点にある。

大意 ある人(亭主)が座敷を作って(絵師に)絵を描かせる。白鷺だけを描いた絵を望む。絵描きは「承知しました。」と言って、焼筆を使う。亭主が、「どれも一見よくできているけれども、この白鷺の飛び上がっている絵は、羽の使い方がこのようでは飛ぶことはできないでしょう。」と言った。絵描きが「いやいやこの飛ぶ姿がもつともすばらしいところなのだ。」と言っているところに、本物の白鷺が四、五羽いっしょになって飛んだ。亭主はこれを見て、「あれを見なさい。あのように描いてほしいものだ。」と言えば、絵描きは白鷺の飛ぶ姿を見て、「いやいやあの羽の使い方では、私が描いたように飛ぶことはできません。」と言った。